

『弟』

「今、おなかの中に赤ちゃんがいて、弟が生まれます。」

夏休みの終わりのころ、お母さんが言った。赤ちゃんが「安定期」という時期に入ったので、教えてくれたそうだ。

まだ幼稚園の年中だった私は、まったく気づいていなかったもので、とてもびっくりした。だけど、ずっととびはねてるぐらいすぐうれしかった。妹は、分かっているさそうだったけれど、まねしてとびはねていた。

「どんな名前にしようかな。」

私は勝手に考えて、「ミライくん」に決めた。ミライくん、早く出ておいでー。

いよいよお母さんの出産日。しばらくお母さんがいない生活が始まった。でも、私は悲しくもさびしくもなかった。弟はもうすぐ生まれるから楽しみなくらいだった。

弟が生まれた日は雪がふっていた。お母さんとビデオ通話をして、生まれたばかりの弟を見た。とてもかわいくて、すごくかわいくて、はやく会いたいと思った。

その2日後の夜、病院から電話がかかってきた。電話が終わると、お父さんが急いで病院に行った。私はなぜ病院に行ったのか分からなくてふしぎに思った。その日はおばあちゃんが家に来てくれて、おばあちゃんと妹と3人でねることになった。私は赤ちゃんに何かあったのかと心配になった。

そのまた2日後、予定よりも1日早くお母さんが帰ってきた。でも、お母さんだけで、赤ちゃんは一緒にいなかった。私はふしぎい思い、

「赤ちゃんはどうしたの。」

とお母さんに聞いた。でも、お母さんは

「分からない。」

と答えた。お母さんでも分からないなんてふしぎだと思った。

そのあと、お母さんが赤ちゃんのことを教えてくれた。赤ちゃんは自力でミルクが飲めない病気だと生まれてから分かって、赤ちゃんを生んだ病院とは別の大きい小児専門の病院に入院したそうだ。私、もうすぐ会えると思っていたのにまた入院してしまっただんねんだっだし、赤ちゃんは大丈夫なのか心配になった。

私がいつも通り朝6時半に起きるとお母さんは家にいなくて、おばあちゃんがいた。テーブルにお母さんが作った朝ごはんとお弁当が置いてあった。幼稚園に行くときもおばあちゃんが送ってくれた。でも、幼稚園のお迎えにはお母さんが来てくれた。朝起きた時、お母さんがいることもあった。でも、幼稚園のお迎えには、来てくれなくて、おばあちゃんが来てくれた。私は、入院中の赤ちゃんのお世話でお母さんが忙しいということは何となく分かったけど、くわしくは分からないのでとても不思議だった。

なぜあまりお母さんがいないのか聞くと、お母さんは毎日3時間ごとに母乳をしぼっ

て、パックにつめて凍らして、往復3時間かけて病院に届けに行っていたそうだ。それを聞いて、私は、お母さんはそんなことをして大変だろうと思った。

お母さんが1日中いない日もあった。お母さんから電話がかかってきて、「今、赤ちゃんの病院にいて、赤ちゃんに注射をしたり、鼻からミルクを入れるためのチューブ交換をしたりする練習をしてるの。」と言っていた。私は納得して少し安心した。

4月になって、私が年長になっても、妹が入園しても弟はまだ入院していた。私は、大きな病院で入院すると聞いたときはこんなに長く入院すると思わなかったから、まだ退院しないのかまた心配になった。

雪の日に生まれた弟が、やっと退院することになった。私は、そでなしのワンピースを着ていた。帰ってきた赤ちゃんは、白いすてきなドレスを着ていて、私が想像していた生まれたて赤ちゃんよりも大きくて少しびっくりした。弟の親指には、心ぞうが動いているか、息をしているかがわかるモニターがつながっていて、鼻の穴にはミルクを入れるための細いチューブが入っていた。ふつうなら、こわいとか、気持ち悪いとか思うのかもしれないけど、私は、弟に直せつ会えたうれしさ、かわいいと思う気持ちの方が大きかった。たしかに、これがなければもつとかわいいのにと正直思ったけれど、見られると他の子にはない、弟のチャームポイントのように感じて、かわいく思えた。弟は筋肉を上手に動かせない病気のせいで、あまり動かなかった。でも、さげんだり泣いたりあばれたりしなくて、おとなしかったから、もつとかわいく見えた。

家に帰ってきてからも、病院にいたときと同じように、天井からつるしたボトルにミルクを入れて、鼻のチューブから3時間ごとに飲ませたり、注射をしたりしていた。私は、退院したからといって病気がなおったわけではなかったから、少しがっかりした。

弟の1さいの誕生日が来た。弟はいすにすわることができなかった。みんなでお祝いをして、ごちそうやケーキを食べて、とても楽しかった。写真は、お母さんやお父さんが弟をだっこしたり、みんなが弟と同じように寝そべったりしてとった。私は、初めて弟の誕生日をお祝いしてすごく楽しかった。

またそでなしのワンピースを着るときになったころ、弟の鼻のチューブと親指のモニター外す日がやってきた。外すと、いつもとちがって少し変な感じだったけど、すごくかわいかった。外してからは、出かけるときに少し荷物が少なくなった気がした。出かけた先でボトルをつるしてミルクを飲ませるための場所を探すこともなくなった。

弟は2さいの誕生日でも歩くことができなかった。初めて歩いたのは誕生日の1か月後だった。好きなアニメをつけると、テレビに向かって歩き出していた。でも、よろけてテレビをのせていた台にあごをぶつけて弟のあごが切れてしまった。私が学校から帰ってきたら弟のあごに大きなばんそうこうがはってあったのでびっくりしたし、大丈夫なのか心配にもなった。でも、弟が初めて歩いてとてもうれしかった。

今は、弟はもう4さいだけど、まだ注射が続いている。それに、3か月に1回病院に行って診察してもらったり、注射をもらったたりしなければならぬ。まだそのように色々続いているけれど、弟はすごく成長した。身長がすごくのびて、ほぼ100センチになった。お兄さんっぽい顔になってきて、赤ちゃんらしいかわいさよりも、お兄さんらしいかわいさになってきたと思う。弟はできるようになったこともたくさんある。たとえば、少ししゃべれるようになって、あいさつができるようになったり、数字が読めるようになったり、速く走れるようになったりした。

私は、もし弟がふうの子だったらと考えた。赤ちゃんの時期が少なくてこんなにかわいがっていなかっただかもしれない。そして、弟が何かできたときに、びっくりしたり、感動したりする気持ちが小さかったかもしれない。そんなふうにした。弟が病気だと色々大変だけど、ふうの子ではまねできないことがたくさんあって、私はそこが大好き。だから、弟が病気だからって、悪いことばかりじゃない。